

令和2年6月19日  
土地・建設産業局 地価調査課

## 主要都市の地価動向はこれまでの傾向に変化

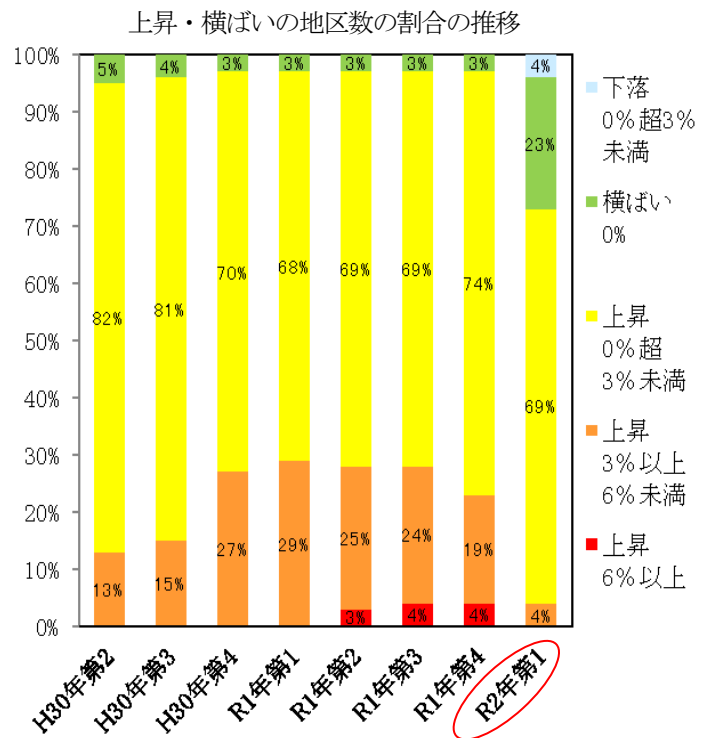
～令和2年第1四半期の地価 LOOK レポートの結果～

主要都市の高度利用地等(全国 100 地区)における令和2年1月1日～令和2年4月1日の地価動向を調査した地価 LOOK レポートによれば、全体としては緩やかな上昇が続いたが、これまでの傾向に変化が見られる。

- ◆上昇地区数が97地区から73地区に減少し、横ばい地区数が3地区から23地区に増加。
- ◆商業系3地区(元町(横浜市)、岐阜駅北口(岐阜市)、丸亀町周辺(高松市))、住宅系1地区(大濠(福岡市))の計4地区で下落(下落は平成26年第2四半期以来)。
- ◆46地区で変動率区分が下方に移行。変動率区分が下方に移行した地区の割合は、用途別では商業系の方が住宅系より高く、地域別では地方圏の方が大都市圏よりやや高い。

### 【主な要因】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、多くの地区で需要者の様子見など取引の停滞が見られ、地価の上昇傾向が鈍化した。
  - 地価動向の変化が大きかった地区では、特にホテル、店舗需要の比重が高く、感染症の影響が大きい。
- ※今回は4月1日時点における評価であり、引き続き新型コロナウイルス感染症の地価への影響を注視。



### 【前期からの地価動向の変化】

前期	●「高い上昇」(6%以上の上昇)	3地区
今期	●「比較的高い上昇」(3～6%の上昇)	
前期	●「高い上昇」(6%以上の上昇)	1地区
今期	●「横ばい」(±0%)	
前期	●「比較的高い上昇」(3～6%の上昇)	1地区
今期	●「比較的高い上昇」(3～6%の上昇)	
前期	●「比較的高い上昇」(3～6%の上昇)	17地区
今期	●「緩やかな上昇」(0～3%の上昇)	
前期	●「比較的高い上昇」(3～6%の上昇)	1地区
今期	●「横ばい」(±0%)	
前期	●「緩やかな上昇」(0～3%の上昇)	52地区
今期	●「緩やかな上昇」(0～3%の上昇)	
前期	●「緩やかな上昇」(0～3%の上昇)	20地区
今期	●「横ばい」(±0%)	
前期	●「緩やかな上昇」(0～3%の上昇)	2地区
今期	●「下落」(0～3%の下落)	
前期	●「横ばい」(±0%)	1地区
今期	●「横ばい」(±0%)	
前期	●「横ばい」(±0%)	2地区
今期	●「下落」(0～3%の下落)	

※地価 LOOK レポート(主要都市の高度利用地等の地価動向報告)とは、国土交通省が、主要都市の高度利用地等を対象に、四半期毎の地価動向を調査し、先行的な地価動向を明らかにするもの。調査対象は全国 100 地区で、内訳は以下のとおり。調査結果の詳細は、以下のHPで公開。

■調査対象内訳：東京圏 43 地区、大阪圏 25 地区、名古屋圏 9 地区、地方圏 23 地区

■ホームページ：[http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/totikensangyo\\_fr4\\_000045.html](http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/totikensangyo_fr4_000045.html)

### ＜お問い合わせ先＞

土地・建設産業局 地価調査課 地価公示室

主任分析官 信原(内線 30366)、分析官 齊藤(内線 30367)、企画係長 小川(内線 30323)

(代表) 03-5253-8111 (直通) 03-5253-8379 (FAX) 03-5253-1578